

第7回 湘南港ヨットハウス（管理事務所）新築に関する施設利用者連絡調整会議 議事録概要

日時：平成24年3月24日（土）10：00～11：00

場所：かながわ女性センター会議室2

（事務局）

ただ今から第7回湘南港ヨットハウス管理事務所新築に関する施設利用者連絡調整会議を開催させていただきます。

開催に先立ちまして、お手元に配布しました資料の確認からさせていただきます。

まず、A4縦で次第が1枚、A3のカラーの図面、平面図と横断図。

それから左肩にホチキスをしております『新ヨットハウス津波避難修正設計に関するお知らせ』これは既に皆様方に今年の2月22日に報告をさせていただいたものです。

以上の資料で、不備等ございましたら…よろしいでしょうか。

では、配布しました次第に基づき開催並びに議事を進めさせていただきます。開会にあたりまして、藤沢土木事務所からご挨拶をお願いいたします。

（事務局）

皆さんおはようございます。年度末のお忙しい中、休日の中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

今年度はヨットハウスの建て替えについて、激動の年という事もありまして、皆様方には、津波避難の修正設計という事で再度お集まりいただき、色々のご意見、検討にご協力をいただきました事をあらためてお礼申し上げます。

昨日、23日に、県議会の最終日でございます、採決が行われました。

その中で、当ヨットハウスの建て替え予算についても、可決という事をいただきまして、全体費用9億9千万円、その内、平成24年度の予算として3千万円の予算をいただく事ができました。皆様方のご理解とご協力をもって進めさせていただいた中で、やっと予算が付いたという事でより一層の拍車をかけて24年度、一刻も早く新ヨットハウスの建て替えに着工していきたいと考えておりますので、また一層のご協力、ご理解を賜りたいと思っております。

皆様方からご協力いただき、ご意見をいただきながら作成しました図面の説明をさせていただきたいと思いますが、予算がついた平成24年度、一刻も早く着工をしたいと、一念を持ってしてやっていきたいと思っておりますので、今後とも引き続きご理解ご協力、よろしくをお願いいたします。

(事務局)

では2の議事に入らせていただきます。

新ヨットハウス屋上避難スペースの修正設計内容についてという事で、資料が、A3の図面2枚、並びに先ほど申しました、お知らせ、こういったものに基づいてご説明したいと思います。

それでは、先にお配りしている、お知らせの方をご覧いただきまして、2月4日に皆様方にお集まりいただき、様々なご意見をいただいた中で、新ヨットハウスの津波修正設計という事に関わる主なご意見というのを、いかに反映していくか、という事でお知らせさせていただいたところです。

主な意見の①番、車椅子利用者の避難も考慮してほしい。スロープ、固定リング等も必要であるというご意見をいただいています。

また②番ですが、提示された案では、屋上避難スペースの高さが屋根より低く感じる。屋根に飛び降りてしまうと思われる事から、避難スペースの高さは屋根より高い位置にしてほしい。また、屋根に降り、転落しないように転落防止が必要ですよというご意見がありました。

このご意見にいかに反映していくかという事を検討させていただいて、このお知らせを申し上げたところですが、ご意見を踏まえた設計については①番、車椅子の利用者対応については、船具庫の屋上を避難スペースとしても利用できる、普段はレース運営のスペースとして利用できるようにして、スロープ、固定金具を設置する。詳細につきましては、平成24年度の詳細設計という予算がついておりますので、その中で船具庫の詳細設計において別途、検討していきます。

②番、新ヨットハウス屋上の避難スペースにつきましては、屋根への飛び降りを防ぐ為の転落防止柵を設置し、柵の高さを屋根と同等の高さで設置します。また、避難スペースの床高につきましては、国土交通省の技術助言通知が出されておまして、その中の具体事例という事で、浸水深プラス余裕高4mというのがございます。これに則しまして湘南港ヨットハウスの所では、慶長型地震Maxの浸水深で6mという計算がでています。その6mプラス4mで10mという事で、お知らせさせていただいています。

また、転落防止柵の高さにつきましては、高層マンションのバルコニーの手摺りと同等の1.3mという事で安全対策を講じます、という事でお知らせをさせていただき、一定程度の図面が仕上がった段階で再度お集まりいただき説明させていただきます、という事でした。

今日は、このお知らせの内容に平面図、立面図というものを示させてさせていただいております。

車椅子の対応につきましては、24年度から行います船具庫の設計の中で検討します、という言葉だけを書かせていただいておりますが、言葉だけではイメージもつかめないし、わかりませんというご意見もありました。

そんな事もありまして、今回は平面図を大きく示して、24年度に設計はするのですが、言葉でお知らせしたものを図面におこして、これを基本の形として設計をする、という意味で、平面図、立面図におこさせていただいております。

また、既存の屋根の波形のデザイン、再検討すべきではないですか、なぜ平らな屋根にしないのか。鋼製デッキの県が示したもので面積が狭すぎるのではないのでしょうか、こういうご意見もいただきました。

これにつきましては、ヨットハウスだけで集中避難をさせるという事ではなくて、分散型の避難対策を進めていくんです、という話しを皆様方にさせていただいたところでございます。

したがいまして今日、後から説明させていただきますが、図面の中で、船具庫の所にも避難ができるものを設けて、その他24年度にはまた別の場所に避難スペースができないかという事も検討していくつもりでございます。

そういう分散型で対策を進めています。というお話しをさせていただいているところでございまして、この面積だけで全てをやるつもりではない、という事でございます。

そして、波形の既存のデザイン、なぜ平らにしないのかというお話しもございました。平らにして、そこだけで大きな面積とするという事ではありません、という事なのですが2月4日の前8月6日に私ども今年度第一回を開かせていただいたところですが、その時に冒頭私の方からご説明させていただいております。これまで、このヨットハウスの設計に関しては、様々な検討を皆様と一緒に進めさせていただいて、積み重ねて決定した形状、その他図面でございます。こういう内容を変更するという事ではなくて、避難スペースを屋根の上に設ける。津波避難の為の再検討をという事で、再度今年度お集まりいただいているところでございます。

したがいまして、既存の所をもう一回という会議ではなく、津波避難の為、海上で逃げ遅れた人をいかに避難させるか、というところで皆さんと検討してきたという所があります。

また、昨年23年5月に各団体の方からご提案をいただいております。その提案の中には、江の島のヨットハーバー津波対策の提案という事で、新ヨットハウスの屋上では緊急避難できるような、フラットなデッキ状にして、外階段で昇れるような仕組みが必要ですね、という提案もいただいております。

こういう事も総合的に鑑みまして、今回皆さんと議論しながら、ご提案させていただき、今日図面が仕上がっているという事です。

図面の方を説明させていただきます。まず平面図のところ、新ヨットハウスの屋根の上に赤く示されている、これが津波避難デッキ100㎡です。その横に、2月22日にお知らせした時は、言葉だけで、スロープをつけますとお知らせしたのですが、平面図の横に船具庫をつけました。面積につきましては、引き続き24年度の詳細設計で皆様方にお集まりいただき意見交換しながら考えていきたいと思いますが、船具庫の所に

スロープを付け、デッキの上に上がる。またデッキ上では、新ヨットハウスの上の津波避難デッキとつながるように、両方に行き来できるイメージで描いています。

それから外階段、これはスロープと一緒に外階段を付けて上がって行って、隣の船具庫もしくは津波避難デッキに行けるように考えたいと思います。

具体的には次頁をご覧くださいまして、一番上の南立面図ですが、一番右に赤く描いてある所が新ヨットハウス屋上の津波避難デッキです。デッキのすぐ隣に黒で描いてありますが、これが船具庫の避難デッキのイメージです。これは横と横でつながっている絵を描いています。船具庫のデッキの横に、スロープと階段がこんな形です。その下は反対側、北側から見た立面図ですが、避難デッキがあって、新ヨットハウス上に避難デッキがあって、その左隣に、船具庫のイメージを描いています。その下が、西側から、側面から見た絵になります。その下が、東立面図、東側の横から見た新ヨットハウス屋上避難スペースの図面です。一番右に四角い物がありますが、これは階段でずっと上がっていけるというような、中からですね。その下は、船具庫についてイメージを描かせていただいています。スロープがどういう形状になるのかという、これは神奈川県のみんなのバリアフリー条例の規定に従って作っていますが、高さ10mの避難デッキまで行くには、何回か折り返さなければいけない。そうするとこんなゴツイ感じの何回か折り返すスロープになってしまう。その横には、外階段。これは上で、新ヨットハウスの津波避難デッキへ上がれる。立面図の一番上を見てほしいのですが、ここに新ヨットハウスのテラスと真ん中の階段の所から船具庫へつながる外の通路をイメージで描いてあります。過去から皆さん方と議論していく中で、渡り廊下が欲しいというお話もありましたが、ここは通路になるので、最初から作ってしまうと、ヨットがあたってしまうよという話で、これはやめて、これはなぜ描いてあるかという、船具庫の横の既存の現ハウスを壊してそちらに通路を回したあかつきにはここに造る。二段構えの考えでいます。図面だけだとイメージがわからないかなという事で、写真も入れさせてもらっています。一番上の写真は少し円形なのですが、新ヨットハウスの上に屋上避難デッキがあって、その横に船具庫のイメージがあって、屋上避難デッキの高さは同じ10m。スロープがずっとあって、避難階段もある。その下が拡大の写真になっています。真ん中に渡り廊下がありますが、その下にスロープがずっとあって、上まで昇れる。それから渡り廊下を渡ってもそこからスロープで、船具庫の避難デッキの所へ行ける。このような二通りのアクセスで模型を作っています。一番下の絵が上から眺観したイメージの模型の写真になります。このようなイメージで、新ヨットハウスの上に津波避難デッキがあり、外階段で昇って行って、それから車椅子をご利用の方はこのスロープをずっと行って、隣の船具庫のスペースに上がってもらう。という模型のイメージを作らせてもらいました。詳細につきましては、先ほども申した通り、24年度、新年度4月以降、船具庫の詳細設計をする際において、つめていきたいと思っています。

詳細な部材というか、構造検討を順次進めているところです。できあがり次第関係法

令の手続きに入り、手続きが終わり次第着工していきたいと思いますが、最短でも秋頃になってしまうのかという気がしています。関係法令が多数ありますし、早め早めに進めるように進めていきたいと思っています。以上が資料の説明になります。

(事務局)

それでは、今日の議事として用意したのは以上ですので、残りの時間を意見交換とさせていただきます。ご意見等あれば発言いただきたいのですが。

本会議ですが、会議の名称が、湘南港ヨットハウス新築に関わる連絡調整会議ですが、24年度からは船具庫の詳細設計も入っていきますが、ヨットハウス新築に関するという話で、この会議の題名と会議をそのまま残して、その他色々検討する事もありますので、船具庫の詳細設計、またヨットハウス自体の着工の進捗も皆さんに報告する必要がありますので、その為にもこの会議を継続するつもりでいます。

ヨットハウス建て替えに伴って、現ヨットハウスの跡地の利用の検討、また、バースの再配置、湘南港全体の津波対策、先ほど言ったような、避難の分散化の話ですとか、ポンツーンや津波の漂流物、そういう対策も湘南港全体で考えなければならないという事もありますので、この会議を残して、この会議の中で意見交換しながら順次取り組みを進めていきたいと思っています。津波対策は待った無しの課題ですので、速やかに検討進めていながら順次取り組んでいきたいと思っています。

(事務局)

前回2月4日土曜日に、ご意見いただいた係留柱の長さ、係留船が津波によって漂流して二次災害をおこすというご意見をいただきまして、事務局としてそのご意見を受けまして、今年度示す事は時間的にできないのですが、ある程度どのような対策ができるか概略であります。どのような施工ができるか、8回・9回と施設利用者調整会議の中で検討して、意見交換・対策が出来れば、という状況でございます。本日の会議の趣旨と外れてしまうのですが、次回以降進めていきたいと思っております。

(事務局)

ようやくここで予算がついたので、一安心しているところで、全体費用9億9千万円というかなり大規模な予算で、なんとかご理解いただいて、是非早期に着工していきたいと思っています。

(利用者)

予算は3千万？

(事務局)

24年度分です。出来形というか、どこまで着工できるのか、というのがあり、だいたい出来形払いでお金を換算すると3千万円位という事です。ただ2年間で、9億9千

万円なので、その次の年は9億6千万円、金額のバランスが悪いのですが、とにかく26年の4月開所を目標としています。

(利用者)

建物に関してまったく素人なのですが、屋根の上にこんなにくっつけるくらいなら、船具庫の上で全部まかなうっていうのが、できない理由というのがあるのですか。

(事務局)

元々船具庫で、という考えがなく、ヨットハウスはマッシブな建物、船具庫はプレハブ型式、ヨットハウスの屋上に人数を全部乗せるっていう事はできないので、ヨットハウスの屋上に避難させる、という事をやってきて、船具庫の屋上というのは、レース運営のところで何かできないかなという考えはありました。そこへスロープ、身障者の方々がヨットハウスだけでは上がれない、その機能を付加しようという事です。

後は分散避難というか、ドンと地震がおきた時に、一つしか避難場所がないと皆さんパニックになって、入り口に集中してしまう。パニックの状態、いくつか上れる所、逃げれる場所があると、そこでのパニック事故というかヒューマンエラー的なものも、分散をする事によって防げるのではないか。それを含めてヨットハウスが受け持つ所なり船具庫が受け持つ所なり、また他の所で受け持つ所なりの検討を24年度、皆様方と進めていきたい。

(利用者)

船具庫の上を広げるという事はできないのか。これは金の問題ですか。

(利用者)

結果的に今、こういう絵が出てきたからそう思うのであって、今まで船具庫っていうのは将来の事だから、クラブハウスだけの話で、避難の話も前回もやっているわけです。だから、クラブハウスに対してどういう避難、屋根にしたらいいのかという話だった。それは、クラブハウスに対する津波対策という事だったが、今回、船具庫も一体で、船具庫の設計と同時期になったというだけの話で・・・

(利用者)

僕らから見ると、船具庫もクラブハウスも施設として一緒だから・・・

(事務局)

キャパシティーとしては広がるので、そのぶん、避難は可能になってくる。じゃあ船具庫の方はどのくらいの状態にするのかというのはこれから話を進めるが、スペースとか車椅子の方々回転半径であるとか、いろいろとご意見をもらっていないと。

(利用者)

全体9億9千万円の中で、ヨットハウスと船具庫？

(事務局)

ヨットハウスだけです。

(利用者)

船具庫は、まだ実際予算がついてないとなるとわからない、何もできないと思います。

(利用者)

こういう風な絵が提示されると、ある程度予算がおりにあるであろうという事を、今までには、あまりに期待できないと思ったのが、ここまで一体化した建物になると…

(事務局)

そんな事言ったらって予算を本当にとれるの？というのがあると思うのですが、少なくとも、詳細設計の予算はとれていますし、必ず何千万円、何億予算とりますという、はっきりした事は言えないのですが、26年の4月に同時に船具庫が共用しないと、機能しないわけじゃないですか。ですから必ず造ります。

(事務局)

船具庫で、24年度は詳細設計という名目で予算がつきましたので、それは24年度から始めていきます。

(利用者)

津波対策で、よく東北の映像を見ると、真ん中の所に波がきて真ん中の方からやられてくる。ちょうど建物の間ですね。

(事務局)

船具庫との間の所ですか。

(利用者)

そう。これで見ると、スロープの所から一番最初に流れてしまうのではないかとか、この辺に置いて大丈夫か、縦にした方がいいんじゃないかとか、後ろ側にした方がいいんじゃないかというのがあるのですが、この辺はそういう事も考慮しながら検討していった方がいいのではないかと。ほとんどたぶんこの真ん中で流れていって…

(事務局)

流速が早まってしまうかもしれないという事ですか。

(利用者)

そうです。両側の建物が大きいので、ここしかなくなっちゃいますから。

(事務局)

折り返しの部分が多くなっちゃう、抵抗が増えちゃうんですね。

(利用者)

建物の屋根、これで確定してるんですか？

(事務局)

そうです。

(利用者)

これ以上の変更はない？

出身が今回震災があった気仙沼という所で、ゆりあげ地区で、逃げている方から話を聞くと、スロープが長いと、実際走って逃げている最中に、年寄りの方とか、建物に上りきれずに流されたらしいです。そういう状況を踏まえると、こういう複雑なスロープになっていても、実際上の上りきれずに流れてしまう事がありますので、建物の屋根が確定しているんですかというのは、建物の屋根がフラットであれば、わざわざデッキをつけるというよりも、もっと楽に屋根に上れるという事になると思うんです。

(事務局)

いずれにしてもスロープは必要になりますよね。

(利用者)

スロープは必要になりますが、たぶん長さを何かこうやるというよりも…

(事務局)

高さの問題ですよ。高さは必要なのでいかに折り返しを無くすかという事が課題になってくる。

(利用者)

そうですね。やはり、避難できる場所というのはここに限らず、もっと全面に渡っていれば、楽に行けると思うんです。この2ヶ所じゃなくて、屋根全面ならば苦労する必要ないと思うんです。

(事務局)

まさに分散型ですね。

(利用者)

スロープは通常使う為のスロープですよ、神奈川県基準で。だけど緊急時の車椅子の人を上上げる為のスロープなんだから、通常車椅子の人が平常に使うスロープをここに設計するというのはおかしいのではないですか。

(事務局)

例えばどういう…

(利用者)

だからもっと急でもいいんじゃないですか。というのは、あくまで基準というのは日常生活の中での基準じゃないですか。

(利用者)

条例は日常の中での、車椅子の人のスロープですが、これはあくまで、緊急避難の為のスロープなんだから、後ろで押す人、ふたりで押せば、誰か押していけばできるとか、考え方って柔軟にできるんじゃないですか。

車椅子の方が通常ここで、上に行って眺めるから、スロープってくれという事で言ってる話じゃないと思います。

あくまで、緊急避難の時に車椅子を押して、上まで素早く逃げたいという事で、そういう意味での避難通路でしょ。だからその辺の考え方は…

(事務局)

車椅子利用者にヒアリングしてみて、どういうやり方がすぐ上れるのか…

(利用者)

急でも、その時はひとりで上るわけじゃないんだから、その辺の考えというのは、緊急避難と日常生活との考えがあると思う。

(事務局)

通常時でも利用できるような形のほうがいいと思うんですが、誰でも上にあがれるように。

(利用者)

だけど誰でもって、普通の人には階段で上られるじゃないですか。

(事務局)

通常で上られるパターンと非常時に上られるパターンとふた通り、という考え。

(利用者)

そういう2パターンをやるのかという話もある。最初にクラブハウス作る時に、エレベーターは必要ですかという話しがでたんです。それで、いらないという話しになったんです。それは、車椅子の人が上に行って、その時は展望台とかあったんです。そういう話しはでてくるんです。エレベーター必要ですかという話しがでた時に、そこまでする必要ありませんという話だった。だから、これはあくまでもそういう意味の話じゃない。

(利用者)

非常梯子とか、つくんですよね。

(事務局)

この階段で。

(利用者)

ぱっぱっと上れるようなステージはないのか。

(事務局)

はしごで上るのは…子供が上っちゃうから…

(利用者)

そういう事なんですか。

(事務局)

あくまでもこれは日常的にも皆さんに利用してもらって慣れてもらうという考え方なので…

(利用者)

普通に考えると、そんなもんがあれば、人なんかどんどん上げられるし、いいんじゃないかと思ったけど、それはいろんな意味でできない相談だと…

(事務局)

スロープは、これだけ折り返しが有ると、時間が掛かるというのは、そうだなと思っていて、ここは検討します。

(利用者)

普段も上まで車椅子の人が希望するなら上がれた方がいいっていう事を考えた場合に、県の基準にそった話して、車椅子の人が、上に上がって10m上から海を見る事だって、観光的な事も含めて、一般の人も車椅子で行って入れる。そこまでオープンにするのなら、こういう設計にした方がいい。

津波の事だけです。普段利用できる形を重視していかないと、今津波っていう話題になっているけど、だけど普段これだけの物造ったら、皆さんが誰でも使いやすくする事が大事である。

(利用者)

船具庫の上のスペースというのは、一般の人が常に来るんだというように考えなければならぬ。

(利用者)

それは逆に、どういうイメージにするかというのは、これからお願い・打合せをしていけばいいだけである。

(利用者)

26年度に出来上がるんでしょ。この2年間の対策っていうのは、津波対策は発表されてないんだけど。

(事務局)

現状の対策は、港湾管理者さんの方でいろいろ骨を折ってもらって、現状での県のヨットハウスの運営での津波避難行動をホームページで公開して、避難行動マニュアルというのがあり、現時点でできる対策を考えています。

(利用者)

その中で女性センターや山の上に逃げる案があるわけでしょ。それが、道が狭いとか、その中で立派な設計ができていいのですが、この2年間の安全対策を併せて考えてほしいと思います。

(なぎさパーク)

元々、今ヨットハウスがある場所というのは、新しく造ろうという所と比べると、県の発表の資料によると、浸水深が低いんです。3m程度。色が塗られています。空き地がここしかないので仕方無いのですが、わざわざ波が高い所に新しいのを建てなきゃいけないところがあるんですね。ここの船具庫の場所というのは、県が発表しているデータを見ると、3m程度、ですから今のテラスに乗れば、ぎりぎりなんとか間に合っちゃう。そういう風に考え、もちろん避難誘導の訓練等についても今後やっていかないとはいけないと考えています。

(事務局)

ライフジャケットなんかずいぶん揃えていただいて。

(なぎさパーク)

それは当然の対応で考えていますけど、先ほどの説明で、26年の3月に船具庫と一緒に一斉共用という話がありましたが、という事は、この真ん中の通路は、その間どういう扱いになるんでしょうか。ここに折り返しの、こういうスロープができるとこれで、他のヨット搬出入に支障が…

(事務局)

それは間隔とってある。

(なぎさパーク)

出入りはできると…

(事務局)

はい。

(なぎさパーク)

階段は出っ張らない？

(事務局)

真ん中のテラスの所は出てしまう。

(なぎさパーク)

そうじゃなくて、この階段、相当出っ張っているように見えますけど。ヨットのトレーラー通れないですよ。

(事務局)

そういうつもりなんですけど、通れないですかね。

(なぎさパーク)

ここ何メートルあるんですか。

(事務局)

船具庫の設計はこれからですから、今後照査します。

(なぎさパーク)

今言ってるのは、3m50、約4mありますから、そんなに余裕無く、サイドにふれたりしますんで、通っていますんで、この通路というのは、元々渡り廊下を云々という話し、後から提議するという話しがありました。その元々の話し合いの中で、建物完成後、今の旧ヨットハウスを取り壊して、通路を付け替えた後に、ここに、上をつたわっているような格好で渡り廊下を付けましょうという話しはありましたので、それはそれでわかっていますが。

(事務局)

階段がこれだけ出ちゃうという事？

(なぎさパーク)

ちょっとこれは無理だなと思うのと、船具庫、まだ未検討という話しでしたが、設計業者、昨年決まっちゃって、もう…

(事務局)

この図面です。

(なぎさパーク)

予備設計は出来ていますよね。それと、立面図がだいぶ違ってきますので、構造が変わったのかなと思っているのですが。一緒に共用されるという事は、ここを通れる状態で造っておくと。

(事務局)

そうです。

(なぎさパーク)

壊した段階で、ここに付け替えして、こちらにメインのものを造るという形ですね。そういう話しだと、ヨットハウスの跡地の問題というのが、利用団体から、要望がこの会議に出されていて、約4年前からこの話しは、土木事務所からお話しをいただいている話しの延長で、様々な形で要望を出されている中の一環として、船具庫の屋上部分を使った活動拠点という話しもでていますが、それも来年以降検討されるという事でよろしいでしょうか。

(事務局)

それをお願いしていますよ、という事です。

(なぎさパーク)

いや、これは普段ですよ。いわゆる活動拠点としての拠点であるとか、様々な活動拠点を造って欲しいとか話しをいただいて、それについては検討すると、土木の方でお

っしゃっていますが、この上で検討するという事でよろしいですね。

(事務局)

跡地利用の中でということです。この上でと限定的な事を言ってはダメです。

(なぎさパーク)

わかりました。少なくともここは今まで通りに通路としては使うという事でよろしいですね。

(事務局)

はい。

(利用者)

写真で見ると、船は通せませんよね。渡り廊下つけちゃったら…マストはね、7、8 m、10 m。幅は片側3 m以上必要でしょう。だからスロープより高さが4 mくらい必要かな。

(なぎさパーク)

ヨットのレースの時に、トラックで入り口の船をたくさん持ってきて、搬入するんです。その通路というのは工事の期間は使用出来るんですか。

(事務局)

工事の期間ね。

(なぎさパーク)

完成した場合は、スロープの、船具庫の右になるんですか？

(事務局)

右になります。一番上の立面図。

(事務局)

とにかく、既存のステップを共用しながら、隣で建てて、なおかつレースも運営していったら、最後うまくやるという話しですから。

(利用者)

利用者が少し不便でも南の方の入り口を活用するとか、全体に広く考えた方がいいかもしれない。

(事務局)

そこは建て替えの最中というか、共用するまでに済ませておかないと、順次、段階を踏んで、やっていかないといけない。着工に関する工程的なもの、また既存をどうやって考えるか、大きな話しがあるんで、順次調整させてください。

(事務局)

船具庫の詳細設計の時には、港外からのヨット搬入も含めた図面で、皆さんと話しをするようにします。

(利用者)

船具倉庫があるということを見せていただいて、そういうのができていいなと思うのですが、今日の話合いの主旨と合わないかもしれないのですが、せっかくこっちがこういう、見た目に格好いいと思われる建物が建つのに、こっちの船具倉庫というのはいかにも倉庫という感じで、せっかくこっちがこういうデザインなのに、予算の関係とかあるので、ちょっと一体感がないような。贅沢な事で、今日の議論の主旨とも違うんでしょうが、あまりにもバランスが悪いなど…。こっちがこういうデザインで、屋根のデザインも変えないというのであれば、少なくとも、もう少し一体感があるような倉庫にして欲しいなど。それから、せっかくこういう施設を造るなら、どう使ったらいいかというような、実際にヨットハーバーでヨットに乗ってる我々とすれば、ああいう事もして欲しいこういう事もして欲しいという要望がいくつかあるんです。二層にして幅を狭くしたらという話があったのですが、わざわざ屋上の上にやぐらを組んで避難場所を造るより、二層にして屋上を全面避難場所という事にしてしまえば、わざわざやぐらを組んで上にのせる必要もないし、スロープも、建物の周りを巻いていくような形でスロープを造れば、幅は半分で済むし、車椅子の回転半径も、あまり考慮する必要がなくなるのかなと思ったのですが。

(事務局)

外周をまわるという

(利用者)

スロープはね。そうすれば折り返す二倍の幅が必要になるので、いいのかなと思ったのですが。

それはともかく、できれば倉庫とかは広い方がいいし、例えば他のマリーナの倉庫は普段しょっちゅう使うディングーは立てたまま倉庫には入っているんです。要するに10m位の高さがある倉庫、マストを倒さずに入れておく事ができる倉庫を造ってある。それとは主旨が違うのかもしれないが、そういう事も考えていただいた方がいいのかなと、だいたいマストが7~8m、今江の島に置いてあるヨットの主流が、だから7~8mのマストを立てて収容できるような施設というのもあった方がいいなど。横に寝かしてもいいのですが、今のヨットハーバーはマストの収納場所がないんです。立てておくしかない。予備のマストをしまっておく場所が全くない。だから、そういうのはある程度高さのある倉庫で効率良く収納しておけるというような事を考えていただけると有り難い。倉庫の詳細設計はこれからという事で、ぜひそういう細かい要望を聞く機会を作っておいただけると有り難い。

あとは贅沢ですがデザイン。せっかく造っていただけるのにバランスも考えていただければいいのかと。予算の問題もあるでしょうが。

(事務局)

船具庫としての機能を優先的にしながら、どこまでできるかという事なんですが、お話しにありましたように詳細設計の中でどこまでできるかわからないのですが、できる限り使い勝手のいいものにしたいと思います。

(なぎさパーク)

マストを立てたまま収納するというご意見ですが、どういう船を想定されているのですか。

(利用者)

昔の話なので、今はどうなっているかわからないんですが、例えばレンタルヨットみたいなイメージ、江の島では今やってないかと思うんですが、レンタルヨットで極端なイメージ。そういうものをやらないのであれば確かにそういうものは必要ないと思います。

(利用者)

今の話しの所は全部、マストが立ったまま入れてあるから、それだけの高さの船具庫が造ってある。その船具庫の上に避難デッキも10m位になるから、希望を言えば、半分10mの建物にして、ヨットから戻った時にマストを立てたままとか、予算さえつければ、そういう事も考えられると思うけど、予算とかの問題もあるからなかなか、ただ今他のハーバーでそういう所もあるから、江の島だってそういう一番先端な収容所ができればいいと思う。

(事務局)

新ヨットハウスの中で入りきれない船具ロッカーを船具庫でということ。それはまた詳細につめていきたいと思います。

(利用者)

とにかく、基本的にこれで良いから、早く着工してほしい。

(事務局)

それでは県から提案させていただいた通りの形で順次進めさせていただきたいと思います。

24年度、船具庫の方に検討が移りますけど、計画なり、階段の形状なり、調整の場を開き、またご協力をお願いいたします。それでは本日の会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。